

加えると、36例中25例、70%の高率となる。これは、強力な化学療法による免疫能の低下や、広範囲抗生剤の乱用が、その一因をなしていると思われる。また、活動性結核と同様、mycobacterium 肺炎も著明な集積を示し、この菌属は⁶⁷Gaのいわば親和性が高いようである。主な症例を供覧する。

2. ^{99m}Tc-リン酸化合物の骨外集積像

西沢 一治 神谷 受利 甲藤 敬一
篠崎 達世 (弘大・放)

^{99m}Tc-リン酸化合物による scintigraphy 578 件中、骨外集積を示した 28 件、19 例の検討を報告した。内訳は、大別すると腫瘍性病変への集積が 10 例、非腫瘍性病変 5 例、不明 3 例で、腫瘍への集積が多かった。疾患別では neuroblastoma 4 例と最も多く、次いで脳梗塞と心筋梗塞がそれぞれ 2 例ずつ、他は肺癌、肝癌などの悪性腫瘍が 6 例、炎症病巣が 2 例、診断未確定 3 例である。

19 例中、X-P および CT が得られた腫瘍 7 例梗塞 4 例、不明 1 例の計 12 例について、石灰化の有無を検討すると、12 例中 6 例 50% に、石灰化が認められた。このうち硬塞を除けば 8 例中 6 例、75% の高率となり、腫瘍性病巣への ^{99m}Tc-リン酸化合物の集積には、石灰化が大きな factor となっているものと思われた。主な症例を供覧する。

3. 進行乳癌に対する化学療法の予後判定における骨シンチグラムの役割

浅野 章 荒川 圭二 西野 茂夫
菊地 雄三 三橋 英夫 天羽 一夫
上北 洋一 (旭川医大・放)
(市立旭川病院・放)

進行乳癌を対象に、骨転移巣に対する化学療法の効果判定における定期的骨シンチグラムの意義について検討した。その結果、孤立性骨転移巣群と多発性骨転移巣群との間の生存率の比較では、両者に有意差は認めなかったが、骨シンチグラム上、stable disease の群は progressive disease の群に比べて良い予後を示した。また、骨シンチグラム上 stable disease 中、X 線写真上、石灰化群と、非石灰化群の survival に差は認めなかった。よ

って、stable disease 中、X 線写真上、石灰化を示さない群についても良好な予後を示すことが考えられた。

4. ²⁰¹Tl-Chloride 甲状腺シンチグラムの有用性

戸村 則昭 佐志 隆士 小川 敏英
村上 優子 加藤 敏郎 (秋田大・放)

組織診の得られた甲状腺疾患 34 例について ²⁰¹Tl 甲状腺シンチグラムの所見を各疾患別に検討し、さらに ^{99m}Tc 甲状腺シンチグラム、CT などの所見とも比較検討した。

良性疾患でも ²⁰¹Tl の集積はしばしばみられ、集積のある場合、その診断的意義は少ないと考えられ、また、悪性甲状腺腫でも集積のないことも少なくなかった。良性・悪性によらず充実性腫瘍には多く集積した。

良性・悪性の鑑別診断の点では CT の方がはるかに優れていたが、転移巣に対しての検出率に関しては、²⁰¹Tl シンチが優れていた。

5. ²⁰¹TlCl による甲状腺腫瘍の鑑別について

——特に delayed scintigraphy による検討——

高梨 俊保 駒谷 昭夫 加登真里子
山口 昂一 (山形大・放)

²⁰¹TlCl による甲状腺腫瘍の質的診断は困難とされている。今回われわれは delayed scintigraphy を行い病変部の Tl clearance を正常部のそれと比較することにより鑑別診断が可能と思われたので報告する。

甲状腺に腫瘍を触れ ^{99m}Tc scintigram で defect を呈しかつ組織型の判明している 28 例 (癌 13 例、腺腫 4 例、goiter 7 例、慢性甲状腺炎 1 例、嚢胞 3 例) について ²⁰¹TlCl による scintigraphy を行った。静注直後の early scintigram では腫瘍に一致した Tl の集積を 22 例に認めしたが、組織型による陽性率には差がなかった。そこで静注後 1 時間で delayed scintigraphy を行い、病変部と正常部での Tl clearance を比較した。正常部より clearance が遅い場合 delay (+)、速い場合 delay (-) とすると、癌では 12 例で delay (+) であった。腺腫では明らかな傾向はなかったが、goiter では 6 例が delay (-) であった。以上より、delay (+) の場合には強く癌が疑われ、delay (-) であれば良性疾患と考えることができ